

降下ばいじん、加古川製鉄所 自主管理目標値 (環境対策効果の予測値)

未達成について

当社加古川製鉄所において、この4月以降、降下ばいじんについて、製鉄所影響値 3.0t/km²/月以下 (対象測定地点:加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の3箇所) との自主管理目標値 (環境対策効果の予測値) を設定し、4月から6月までの3ヶ月間については目標を達成したものの、7月については未達成になったことから、その内容を報告させて頂くとともに、今後の対応についてお知らせ致します。

この4月より管理を開始したにも関わらず、自主管理目標値未達成となり、地域住民の皆様には大変ご迷惑・ご心配をお掛けすることとなりましたことを、深くお詫び申し上げます。

<降下ばいじん、製鉄所影響値 実績推移: 自主管理目標値 3.0t/km²/月>

測定地点	単位	4月	5月	6月	7月
加古川神鋼ビル	t/km ² /月	1.67	1.89	2.10	5.07
別府小学校	〃	1.22	1.38	1.28	2.40
尾上小学校	〃	0.85	1.26	0.66	0.92
南風風向頻度	%	19.5	25.0	23.9	46.1

(出所: 加古川市測定データ)

<加古川神鋼ビル 不溶性降下ばいじんの成分比較 6月・7月実績>

成分項目	単位	6月	7月	差異
酸化鉄	t/km ² /月	1.14	2.67	+1.53
強熱減量 (コークス・植物等有機成分など)	〃	1.81	2.40	+0.59
その他 (土砂成分など)	〃	0.80	1.70	+0.90
自然要因等差引	〃	▲1.65	▲1.70	▲0.05
合計	〃	2.10	5.07	+2.97

(出所: 加古川市測定データ)

この7月は、雨量が少なく南風の頻度が高かったことから、散水を強化するとともに、更に7月10日から所内粉塵パトロールを強化しました。その散水強化により、鉄鉱石原料に含まれる水分量が増加し、焼結工場の原料供給施設で詰まりによる原料供給量のバラツキを引き起こしました。その結果、焼結工場において、焼成状態が不安定 (焼き固まり状態の不均一化) となり、焼成工程後の冷却工程で発塵し易い状態を発生させたことが酸化鉄成分の増加の原因と考えられます。

これまで実施してきた各種粉塵対策とこのたびの原因把握後の対策 (散水量の適正化、原料供給のバラツキ防止、パトロール強化) により、7月後半及び8月の数値は6月実績レベルに安定 (当社自主測定) しております。8月以降の正式な数値を確認しつつ、引き続き、環境パトロール・適切な散水の強化を継続し、加えて集塵強化・能力の増強について検討致します。

<大西功一 専務執行役員 加古川製鉄所長 コメント>

信頼の回復に向け、この3月までに各種対策を着実に実行し、その効果に手応えを感じつつあった中、自主管理目標値を達成出来なかったことを、大変申し訳なく思っております。深くお詫び申し上げます。

調査結果に基づき、引き続き、対策を実行していくことで、今後は安定して自主管理目標値を達成するべく注力したいと考えます。

以上